

連載「つたえること・つたわるもの」№158  
「すみません！ありがとうございます」「重  
いから、ボクが運びます」

出版ジャーナリスト 原山建郎

先月、思うところあって、ある人材派遣会社の  
「日雇い(スポット)派遣」スタッフに登録した。

事前の登録説明会では、以下のような「日雇い  
派遣」の主な概要がアナウンスされた。

- ① 派遣元(登録している人材派遣会社)から仕  
事の紹介を受け、派遣先で短期就労する。
- ② 自分のスマホに就労希望日、コメントを登  
録しておく、前日に仕事紹介メールや電  
話での連絡が入る。紹介された仕事を「受け  
る」を選択すると作業確認メールが届く。  
「受けない」を選択すると受けない理由を  
書いて返信する。
- ③ 平日に勤務確認票を支店に提出すれば、翌  
日の銀行振込が可能。

早速、「倉庫などでの軽作業」を希望すると、  
通販大手A社のロジスティクスセンターの「軽  
作業」紹介メールが届いた。

スマホの登録画面を開くと、就業時間 09:  
00~18:00(実働8:00)、休憩時間 12:00~  
13:00、得意先名(就業先名)、作業内容 通販  
商品のピッキングなど、作業確認事項が書かれ  
ていた。

翌朝、電車で就業先に向かう途中、派遣元から  
スマホに電話が入った。

何事かと出てみると、「出発コール(チェック)  
がまだです」との注意だった。あらかじめ自己申  
告した「家を出発する時間」に、スマホで「出発  
コール」ボタンを押すのを忘れていたのだ。

ほかにも、就業先への「到着コール」「終了コ  
ール」確認があり、派遣元は派遣スタッフの就業  
状況(遅刻や早退はないかどうか)を確認する仕  
組みになっている。

この日が初めての仕事だったので、午前8時  
の集合時間少し前、指定された集合場所に到着。  
先輩(引率)スタッフによる点呼のあと、送迎用  
の大型バスに乗り込むために、ざっと数えて80  
人もの長い列に並ぶ。そして、2台目に来た、ぎ

ゆうぎゆう詰めバスに揺られること20分あ  
まり、巨大な倉庫群が立ち並ぶ一角、A社ロジス  
ティクスセンターに到着した。今度は忘れずに、  
スマホ画面を開き「到着コール」ボタンを押す。

受付で識別バーコードが付いた「IDカード」  
と「ロッカー番号カード」を渡され、4階のロッ  
カールームへ。

仕事場での服装は、(くるぶし丈である)綿  
パン、ひも付きのスニーカー、そして派遣元で登  
録したスタッフカード、メガネ、ゴム(滑り止め)  
つき軍手、ハンカチ以外はすべて持込禁止なの  
で、スマホ(私語の禁止&倉庫での作業を撮影さ  
せないためか?)、昼食、ペットボトル(飲料の  
持ち込みは不可だが、各フロアに給水機がある)、  
上着などを入れたカバンをロッカーに入れる。

倉庫の入り口のバーコードリーダーで「ロッ  
カー番号カード」をかざす。ピッという音がして  
ロックが解除される。これは倉庫への出入記録  
(昼食休憩、午後休憩時にも行う)で、セキュリ  
ティ管理の一環。ドアを開けて入る。ふつうのビ  
ルの2階分はある天井の高さ、奥行きのある倉  
庫の広大なフロアに圧倒される。

朝礼時、「初めての人」と聞かれて手を挙げる  
と、引率してくれた30歳代の先輩スタッフBさ  
んと同じ「仕分け」のグループに編入された。

ローラーコンベアで流れてくる、段ボール箱  
詰めの通販商品を、発送先別のコード番号にし  
たがって、それぞれの「カゴ車(格子フレームで  
覆われたキャスター付き台車)」に積んでいく。

大・中・小、さまざまなサイズの段ボール箱を、  
発送先別のカゴ車に積み込んでいくのだが、荷  
崩れしないように積むのは、全くの初心者であ  
る私には結構むずかしい。

自分ではうまくできたつもりで5段に積んだ  
段ボール箱を、先輩スタッフのBさん——この  
方も日雇い派遣のひとり——が、カゴ車から段  
ボール箱をおろし、積み直し始めた。

しまった！ 積み方を間違った。「すみませ  
ん！」と謝る私。すると、Bさんは、仕分けスタ  
ッフ全員に「みんな、仕事の手を休めて、聞いて  
ください」と集合をかけ、次のように話した。

「みなさんが積んだ段ボール箱を、もしかしたら、積み直したりするかもしれません。しかし、それは私のクセのようなものですから、気にしないでください」

私の積み方を悪い例に挙げて、「こういう積み方をしないでください」と注意して、荷崩れしない積み方のレッスンは始まるのかと、身構えていた私だったが、Bさんのひと言に救われる思いがした。

また、大きな段ボール箱をかかえてカゴ車に運んでいると、若手スタッフのCさんが私のそばにやってきて、「重いものは、ボクが運びます」と声をかけてくれた。「ありがとう！ だいじょうぶです」と、50歳以上も若い彼の気づかいに感謝しつつも、重い段ボール箱は自分でカゴ車に運んだことはいうまでもない。

朝9時から夕方6時まで1時間の休憩（厳密にいうと45分間の昼食休憩+15分間の午後休憩）以外は立ちっぱなしの作業、次々に流れてくる段ボール箱を仕分ける作業はかなりハードだったが、BさんとCさんのひと言が、その日の疲れを少し軽くしてくれた。

数日後、やはりA社（ロジスティクスセンター）の「軽作業」紹介メールが届いた。この日の作業は、ベテランの女性パートEさんの指示を受けながら、返品されたアパレル商品の（値札）タグはがしと袋詰め。それぞれに手押し式カウンター（数取器）とタッチ式のカウンター（時間計測器）が設置されており、タグはがしと商品のビニール袋詰め、それぞれに計測された「合計枚数&累計時間」の数字を作業票に写し、担当者名（フルネーム）をカタカナで記入する作業だった。

不安になった私が、「これは個人別に作業効率を査定するためですか？ ノルマがあるのですか」と、この日の先輩スタッフのDさんに尋ねると、「最近導入された仕組みです。ノルマはないと思います。作業速度が早ければよいわけではなく、丁寧に作業するほうがたいせつだと思います」というアドバイスを受けた。

それでも、できるだけ急いでタグはがし、袋詰め作業を進めていると、「ハラヤマさん」と女性

パートEさんに呼ばれた。「タグはがし跡に、糊のカスが残っているでしょう。ちゃんと糊のカスを取ってから、商品チェックに持っていくように」という注意を受けた。よく見ると、米粒の半分くらいの大きさの糊がまだ付いている。糊のカスをきれいに取り、商品チェッカーの女性パートFさんのところへ持っていく。

「あら、どうもすみません。きれいに取っていただいて、ありがとうございます」

てっきり、「あんた、タグの糊を取り残すと、ビニール袋に張り付いて汚くなる」とお叱りを受けると思っていたのだが、その反対にお礼のことばが返ってきて、そのやさしい気づかいが何よりもうれしかった。

このほかにも、物流大手G社のロジスティクスセンター、アパレル大手H社のロジスティクスセンターでの「軽作業」を経験した。

A社では識別バーコード付きIDカードとロッカー番号カードによるデジタル管理だったが、G社では左手薬指での静脈認証（指の第二関節部分をセンサーにかざし、指の静脈パターンを読み取り、事前に登録しておいた静脈パターンと照合する方法）、H社では所定の作業報告表に手書きで記入するだけ（自己申告）でよいなど、それぞれのロジスティクスセンターごとに独自のルールがあった。

やさしい気づかいといえば、二人一組でダブルチェックを行う、G社の「商品バーコード確認」と「同一商品の数量確認」作業で私とコンビを組んだ若手のIさんは、バーコードの読み上げ、数量の確認を行うたびに、必ず「すみません！ ありがとうございます」と言いながら、いつも笑顔を絶やさない。

一度も座ることなく、ラベルに印刷された細かい数字を読み、確認票に記入しながらの実働8時間、常に緊張を強いられる立ち仕事は、私語を交わす余裕もなく、黙々と手と目を動かすだけの長丁場で、たくさんの「すみません！ ありがとうございます」が、私の心をやさしく、そっと温めてくれた。

「こちらこそ！ ありがとう」